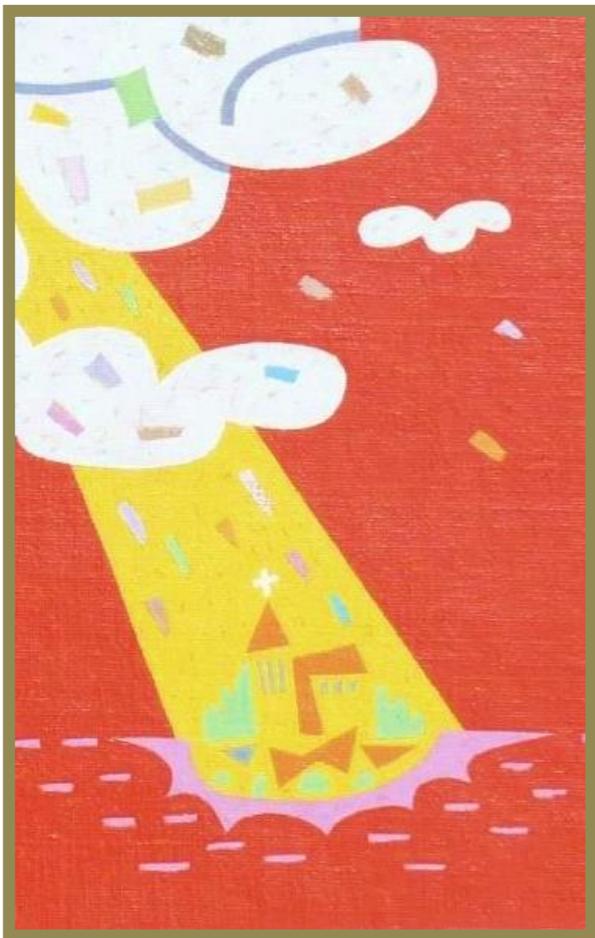


共通理念作成の途中経過

今年に入ってから、「共通理念の作成を！」と問題提起させていただきました。以来、ゆっくりとしたペースで評議員の皆さんと検討してきています。まずは、3月24日の評議会の中で、3つの“候補”が出てきましたので、ここで紹介させていただきます。



① 共に仕え愛し合いなさい、 主に信頼をこめて！

評議員さん以外の方からいただいたものです。ありがとうございます。どうい理由で、この言葉をお勧めされているかの詳しい話は、お聞きしていません。おそらく、「私たちの信仰の核心を改め

て見つめ直そう、原点に還ろう」ということを強調されているのではないかと、思われます。大切なことですよ！

② 家族で見つめよう、 神さまとのかかわり！

評議員さんからのアイデアです。若い世代の“教会離れ”・“信仰離れ”が顕著になっている一つの要因として、家庭での信仰教育の欠如や、家族間で信仰に関することを分かち合っていないことが挙げられると思います。

両親が信者であっても、学業・部活・仕事・友だち付き合いなどに忙しい子どもたちに、信仰の大切さを説くのは容易なことではありません。ましてや、自分一人が信者という家族の場合、さらにハードルが高くなる。

いつしか、配偶者や子どもたちに対して「信仰は無くても元気で学業・仕事を励んでいれば、それでいいか」と容認してしまう。確かに、信仰は強制するものではありませんが、信仰の恵みに生きることに関して、家族間で対話する・祈るとい努力をもう少し工夫して試みるということでしょう。

③ 信仰共同体の未来のために、 種をまこう！

御受難会・来住英俊神父様の「キリスト者と思想の交差点～地域再生と宣教の類比(下)」という記事(『カトリック生活』2019年4月号 p.p.25～27)に刺激されて、改めて“宣教の試みの大切さ”と“自分の怠慢”を反省させられました。

その一方で、(言い訳がましいのですが)抱えている(目の前の)諸課題に対処するのに、今のところ精いっぱいなんです。自分のキャパシティの貧しさを思い知らされます。それでも、何とか工夫して宣教～より具体的には、“若い層へ

の宣教”に、もっと力を注がなければならぬ。

このままの状態が続けば、ますます教会内の少子高齢化が進展し、(そう遠くない将来に)行橋小教区存亡の危機を招いてしまうかもしれない。だから、少しでも多くの次世代の人々・若い人々に、教会に来てもらって教会を支えてもらわなければなりません。

そうかといって、面識のない不特定多数の人々向けに、行橋駅前演説したり、ビラ配りをして、反応はないでしょう。やはり、まずは“与えられているつながり”を“とっかかり”にすることが現実的だと思われまふ。



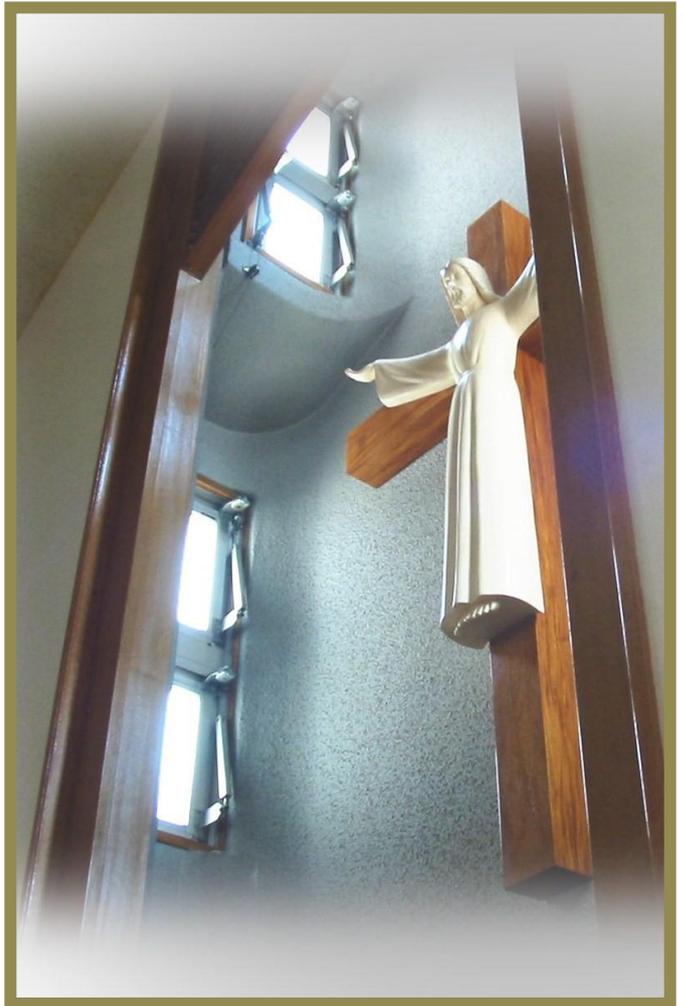
まだ、アイデアだけの段階ですけど、
 (1) 教会青年たちのための講座、
 (2) 幼稚園保護者への講座、
 (3) 幼稚園職員たちへの講座を、
 できれば今年中に実践に移せばいいな、
 と思っております。

(1)・(3) なんかは、皆さんの協力の下、
 親睦会・食事会とリンクさせてやってもいいな、と思案中です。

私たちが取り組むべきは、種まき。結果は、神さまの領域です。

頑張っても、なかなか結果が得られなくて(長い間)苦しむかもしれませんが、大切

なのは“種まき”・・・教会の未来のための種まき、それが、私たちにできることであり、また私たちの義務でもあります。



まずは手始めに、今年の信徒総会あたりには、皆さんと“行橋小教区としての理念”を共有できたら、と思っています。皆さんも、「この現状の中で、私たちが具体的にどのような神さまからの呼びかけ・促しを受けているか？」という視点から、ご意見がありましたら、評議員さんでも私でも結構ですから、どうぞ教えてください。